昭和44年１月９日第三種郵便物認可

毎月１回　１日発行　第４７７号　　岩　手　の　畜　産　　平成１９年５月１日　(1)

岩手の畜産

平成19年５月号

発行所
社団法人　岩手県畜産協会
〒020－0173 滝沢村滝沢字砂込389番7
☎ 019－694－1300(代)
FAX019－694－1305
Internet Address http://iwate.lin.go.jp
E－Mail Address info@iwate.lin.go.jp
（定価110円）会員の購読料は会費に含まれる
印　刷　小松総合印刷株式会社

酪農“ポジティブ”雑感

岩手中央酪農業協同組合
代表理事組合長　佐々木　　勲

当組合は、正組合員数200戸余り、年間出荷乳量３万700トンの規模の酪農専門農協です。本県全体の酪農家戸数は1,400戸程度になり減少の一途をたどっております。更には酪農従事者の高齢化、後継者不足、その後継者の配偶者問題等明るい話が見当たらないというのが、最近の挨拶の枕詞になっております。去る３月には減産という局面もありました。

しかし、このような状況は酪農に限ったことではなく、農業全般あるいは小売業等他の業種でも問題となっていることであります。もちろん、酪農に限らないからといって放置して良いという法はなく、当組合を始め各農協あるいは関係機関で重要な問題として取り組んでいることは言うまでもありません。

このような状況ですが、皆で頭を抱えていてもしようがありませんので、少し目線を変えて酪農業界をポジティブに見てみたいと思います。

第一に飲用牛乳の消費が落ち込んで、結果として供給過剰状況になり、減産型の計画生産を余儀なくされているのは事実ですが、現在北海道にチーズ工場を建設し、需要が伸びているチーズの自給比率を高めようと取り組んでおります。また国内では乳製品はダブついておりますが、諸外国を見回すとそうでもないようです。特にブリックス諸国の経済力が増して来ていて乳製品等の需要が増大するのは確実だと考えられます。さらにはポスト・ブリックスもあるという説もあり、国内における供給過剰の状態はあまり長続きしないのではないでしょうか。

第二に容器の問題ですが、今秋にもペットボトル入り牛乳が解禁になる方向で進んでいることです。ペットボトル入りの清涼飲料水、茶系飲料のように手軽に飲めるようになる可能性が出てきたことです。解禁になって直ぐに飛躍的に消費が伸びるとは考えにくいのですが、明るい情報には間違いありません。

第三に、バターの強敵としてマーガリンの存在があり、どうしてもマーガリンに勝てなかったのですが、そのマーガリンに含まれる「トランス脂肪酸」が悪玉コレステロールを増加させるということで、海外では販売禁止あるいは総量規制している国もあるそうです。賢い日本の消費者にも、やがて広がるものと思います。他人の不幸を利用するのはいけないのですが、何らかの動きはあるものと思います。また豪州の医師が妊婦の乳製品の摂取不足は新生児の先天的欠損症に関連するとの報告があったそうです。

ポジティブにみると、まだまだ挙げられるのですが紙面の都合で省略しますが、やはり牛乳はすばらしい食品です。フードファディズムなんのそのです。

やっぱり、酪農に携わってよかったとつくづく思っています。

畜産春秋

もくじ
CONTENTS

畜産春秋…… 1
第68回通常総会…… 2
シリーズ·今こそ肉用牛の増頭を…… 4
先進的畜産経営の動向（養豚経営）…… 6
畜産の研究…… 7
現地情報…… 8
「女性の集い」開催…… 8
平成18年子牛生産費（岩手県）…… 9
畜産技術情報…… 10
日本短角種施策提案·要請検討会開催される…… 11
ティータイム…… 11
家畜の保健衛生…… 12
図書のご案内…… 12
子牛市場及び家畜市場成績…… 12

第68回通常総会

岩手県畜産協会の第68回通常総会が３月28日盛岡市「産業会館」で開催されました。

小笠原会長は冒頭の挨拶で、「牛乳の生産調整、濃厚飼料の値上がり等厳しい情勢。またＷＴＯ、豪州との経済連携協定も、もし関税撤廃などということになれば自給率が40％から12％に、生産額も半分に下がるとの予測もある。関税撤廃阻止を強く要望していく。」と述べました。また来賓の畜産課樋澤総括課長は「豚、ブロイラーについては比較的経営基盤が確立しているが、酪農、肉用牛、特に肉用牛については経営基盤の弱体化が懸念される。肉用牛の振興運動やその他の取り組みを強め、本県の畜産振興に努めるよう期待する。」と祝辞を述べました。

続いて議事に入り、始めに「生乳検査業務規定の一部改正」と「地域肉用牛振興特別対策事業に係る補助金の額等について」の議案が提案され承認されました。

ついで18年度の一般事業および特別会計事業の追加、廃止およびそれらに伴う補正予算が承認可決されました。

その後19年度の事業計画と一般会計234,510千円、特別会計1,621,236千円、合わせて1,855,746千円の予算および本会会費24,593千円と徴収方法等すべての議案が原案通り承認されました。

基本方針

本県の畜産産出額は、農業産出額の約50％をしめ、これに畜産物加工業等関連産業の生産額を合わせると地域経済の維持発展の主要な原動力となっている。

このことを踏まえ、本会が公益法人として畜産主産地形成の一翼を担っていくため、岩手県が定める農業農村基本計画・酪農及び肉用牛生産近代化計画・家畜及び鶏の改良増殖計画及び農協等生産者団体が進める諸対策について関係機関・団体と緊密な連携のもとで当協会の総力を結集して、畜産経営や飼養管理技術の指導・家畜改良及び自衛防疫等の推進を図るとともに、安全かつ良質な畜産物の生産のための検査、指導を果敢に進め、本県の畜産振興に寄与する。

挨拶する小笠原会長

重点推進事項

1　認定農業者等主業型経営体を対象とした経営診断・経営技術指導及び最新技術情報の提供・研修会の開催。
2　家畜防疫等家畜衛生対策の推進。
3　東北ブロック生乳検査の一元化に伴う受け入れ態勢の確保と検査業務の円滑な推進。
4　家畜自衛防疫、家畜登録（乳用牛･豚）、人工授精用凍結精液等の供給、生乳検査、肉用牛肥育経営安定対策、地域肉用牛振興特別対策及び地域養豚振興特別対策等特別会計事業を活用しての各種情報等の効率的活用。
5　肉用牛の改良増殖及びいわて肉用牛増頭運動等を推進し、生産振興に寄与。

一般会計事業項目と予算額

１．事業費（16,330千円）
畜産技術指導促進事業
職員技術研修事業
北海道・東北畜産協会職員研修事業
畜産関係団体運営基盤強化事業

２．補助事業費（72,328千円）
○岩手県補助事業
「岩手の畜産」発行事業
畜産共進会開催等事業
○地方競馬全国協会補助事業
畜産経営技術指導等事業
馬の改良増殖奨励事業
○全国家畜畜産物衛生指導協会補助事業
馬飼養衛生管理特別対策事業
育成馬予防接種推進事業
家畜防疫互助基金造成等支援事業
死亡牛緊急検査処理推進事業

オガクズおよび杉皮粉砕
入用の方は、下記あてご連絡をお願いします。
価格、運搬方法についてはご相談に応じます。
なお、杉皮粉砕は格安でお譲りします
気仙郡住田町上有住字山脈地21　（有）菊池製材所　TEL. 0192－48－2528　FAX. 0192－48－3261

衛指協事業強化事業
○農畜産業振興機構補助事業
肉用牛振興推進指導事業
肉用牛肥育経営安定対策事業

3．受託事業費（95,775千円）
○岩手県受託事業費
畜産生産基盤育成強化事業費
乳用牛群検定情報分析センター機能向上事業費
岩手県家畜改良事業
家畜飼養管理等事業
種山高原牧野放牧事業
○中央畜産会受託事業費
肉用牛生産効率化推進調査事業費
畜産関係団体調整機能強化事業費
畜産生産基盤育成強化対策推進事業
畜産経営改善技術のための支援・表彰事業
畜産特別資金借受者に対する指導受託業務
大家畜経営改善支援資金借入者に対する指導受託事業
乳用種育成経営等調査業務
畜産経営改善のための中央情報活用体制整備事業
図書支援事業費
○他団体受託事業費
畜産近代化リース協会貸付事業等指導事業費
養豚基礎調査事業費

4．負担金事業費（19,339千円）
ミルキングシステム診断指導事業
肉用牛肥育経営安定対策事業

5．一般管理費（42,345千円）

6．特定預金支出（5,323千円）

合計　251,410千円

特別会計事業項目と予算額（支出）

1．家畜人工授精用精液流通調整事業（74,910千円）
2．地域養豚振興特別対策事業（12,316千円）
3．肉用牛肥育経営安定対策事業（1,008,930千円）
4．家畜登録事業（39,973千円）
5．地域肉用牛振興特別対策事業（89,104千円）
6．家畜自衛防疫対策事業（261,880千円）
7．生乳検査事業（134,121千円）

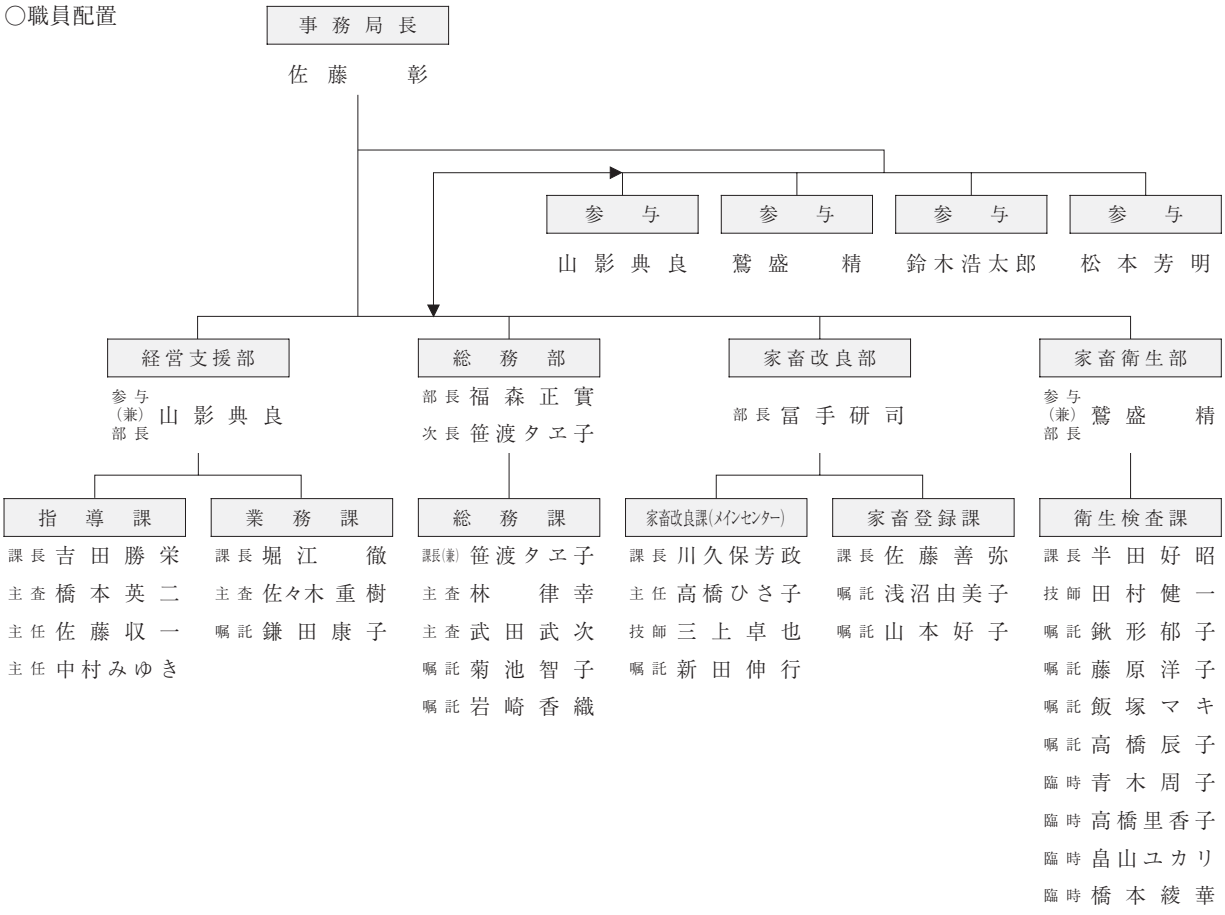
合計　1,621,234千円

(社)岩手県畜産協会役職員体制

（平成19年4月1日現在）

○三役：会長　小笠原一行　　副会長　菊地　清彦　　常務理事　山下　　進

○職員配置



シリーズ10 今こそ肉用牛の増頭を!

－寄り集まれば力、集落営農組織で和牛繁殖を継承・発展－

（奥州市衣川区「大平地域営農活性化組合」の取り組み）

県南広域振興局　農林部

いわて肉用牛増頭運動に向けて本誌では各種情報や地域での取り組みをシリーズで掲載しています。今回は奥州地域における肉用牛振興の取り組みを紹介します。

岩手の黒毛和種繁殖雌牛の飼養頭数は平成４年がピークでした。

社団法人岩手県農畜産物価格安定基金協会のデータ（肉用子牛生産者補給金制度）によれば、その12月末の飼養戸数は17,892戸で、59,296頭が飼われていました。

それが現在（平成18年12月末）では、7,393戸（平成４年対比41.3％）、38,194頭（同64.4％）にまで減少しています。実に10,499戸が繁殖牛を飼うのを止め、21,102頭の雌牛が姿を消したことになります。

10,499戸で21,102頭、単純に平均すれば一戸当たり２頭飼っていた農家が牛を飼うのを止めたことになります。小さな牛小屋があり、草があって、母牛に餌をやり、たい肥を出す。日々これを繰り返して、年に２回子牛を産ませ、育てて出荷する。これが続けられなくなるのはどうしてでしょうか。

ある日、いつも牛飼いに従事していたおじいさんが風邪を引いて寝込んでしまいます。息子は仕事に行く前に餌をやらなければならない。息子の嫁も仕事があるし、普段からあまり牛に触ったこともない。これは一大事ということになります。風邪が治って、おじいさんは牛飼いに復帰しますが、こういったことが何度かあって、おじいさんは、「家族に迷惑がかかるから」と、本当は続けたくとも、牛飼いを止めてしまいます。年齢に係わらず、家族の中で牛飼いに従事するのが一人では、何かあったときに大変なのです。

兼業化が進み、副業的農家となってしまった小規模繁殖農家が牛飼いを止めるのには、こういった事情があります。

こうした状況の中で、繁殖頭数の維持・拡大を図るため、さまざまな取組が行われています。

その一つが、キャトルセンターと呼ばれる預託施設を整備して、農家の規模拡大を支援する方法です。代表的な例としては、奥州市胆沢牧野が挙げられます。胆沢牧野は、夏季放牧を実施するほかに、敷地内に牛舎を設置し、冬季間も預託を受けることができるようになっています。これによって、繁殖農家は年間を通じ、一定の頭数を預託できるようになり、農家に生じた空きスペースで増頭を図ることが可能となります。増頭によってまず増収を図り、その後で施設の充実を図ることができます。実際に胆沢牧野を利用することによって、100頭規模の和牛繁殖専業経営も育っており、中規模の農家が規模拡大を図るうえで大きな効果を上げています。

本稿では、これまで繁殖頭数減少の主体を成してきた小規模繁殖経営の資源を、地域で維持・継承していこうとする取り組みを紹介します。

奥州市衣川区の大平地域は、過疎化が進み、農業従事者の高齢化や担い手不足が深刻化している典型的な山間集落（世帯数17戸、住民数75人（うち65歳以上は32人））です。取り組み以前には３戸で13頭の繁殖牛が飼われていました。

平成12年に中山間直接支払制度を導入することを契機として、大平地域営農活性化組合を設立し、集落の活性化の方法を検討してきました。民間のアドバイザーを招くなどしながら、荒廃しかけている農地及び林地の保全や活用について検討を重ねた末、和牛繁殖経営を柱に据えることに行き着きました。大豆、麦、ハト麦、ガルギール、リンドウなど、さまざまな作物も候補に上がりましたが、集落のほとんどの農家で、過去に繁殖牛

南山形養豚組合（岩手町）
いわて厳選 やまと豚
岩手畜流会
母豚２，０００頭の一貫経営
・良質豚ぷん堆肥の供給
・徹底した衛生管理と優良系統豚による斉一性の高い高品質豚肉の生産・供給
「南山形養豚組合」
岩手町大字川口36-242-3
TEL. 0195-62-9087　FAX. 0195-62-9373
※精肉のご用命は岩手畜流会（食肉専門店）へ

を飼った経験を持つことが決め手になりました。

まず取り組んだのが、転作田や隣接する林地への繁殖牛の放牧です。電気牧柵を張り巡らし、夏場の管理の省力化を図りました。平成18年度は4.5haに11頭が放牧されました。次に取り組んだのは牛舎建設です。平成18年度に16頭飼養できる牛舎（155.5㎡）を建設しました。建設予定地の伐採・造成は組合員が総出で行いました。土木工事や建設工事に携わった経験のある組合員が、基礎工事から屋根工事まで、ほとんどの工程に参加して、総事業費約450万円（県単補助事業と中山間直接支払交付金を活用）で完成しました。この牛舎では、組合所有牛のほか、個人所有牛も飼養しています。放牧事業や牛舎建設を進めていくうちに、集落内の飼養頭数は23頭（うち５頭は組合所有牛）にまで増えました。

転作田での繁殖牛の放牧

転作田に組合員総出で電気牧柵設

組合員も参加して牛舎建設

牛舎完成・入舎式

放牧地や牛舎での作業は、組合員が当番制で行っていますが、当番以外の人も、様子を見に来ることが多く、集落の人たちが寄り集まる場にもなっています。当番に当っていた人が、都合があって行けないときは、代わりの人が作業に当ります。誰かが風邪を引いても、問題は起こりません。組合が繁殖経営を行うメリットがここにあります。

組合では、当面、放牧面積を約15haまで拡大するとともに、組合所有牛を17頭（１組合員当たり１頭）にまで増頭することを目標に掲げ、「それが達成されたら、次は２号牛舎の建設」、と夢を膨らませています。

これまで、地域農業の柱は稲作でしたが、米の価格は年々下落を続けています。包装代や消費税等を含めた取引価格は、平成８年産米が20,566円／60kgだったのに対して、平成18年産米では15,667円／60kg（第１回から第14回取引までの回ごとの加重平均価格を単純平均した価格）で、実にこの10年間で約５千円も下落し、それだけ水田農業地帯のお金を稼ぐ力（地域の農業経済力）が低下したことになります。この低下分を何かでカバーしなければ、農業・農村の元気がますます失われてしまいます。

和牛繁殖経営のほとんどは稲作との複合経営ですが、その稲作を代表とする耕種農業では、いよいよ平成19年度から新たな価格安定対策（品目横断的価格安定対策）が始まります。農地４ha未満の農家がこの対策の恩恵を受けるためには、集落営農組織に参加することになります。集落営農では、米や転作作物（麦、大豆）の作業効率化により経費が削減されるメリットがあります。反面、集落営農組織における個々の構成員を見た場合、農業との結びつきが強くなる者もいれば、逆に弱まる者も出てきます。その結果、「田んぼも畑も任せたし、たい肥とりのために飼っていた牛もそろそろやめようか」という農家が出てこないとも限りません。そうなったら、地域の農業経済力低下に拍車をかけることになってしまいます。

前段で述べたように、小規模農家が個々に繁殖牛を飼うのは難しい状況になっていますが、本稿で紹介した事例は、小規模であっても、寄り集まれば、貴重な繁殖資源を継承させることができることを教えてくれています。

飼養規模５頭以下の農家戸数は、この一年間で328戸減って、5,491戸になっています。これは戸数全体の74％に当たり、頭数では全体の36％を占めています。農家個々の規模拡大を図る一方で、この小規模農家の繁殖資源を地域で継承させる手立てを講じる必要があります。集落営農の進展によって、人的な余力も生まれてきます。その人的資源を活用し、集落営農組織が地域の繁殖資源継承の受け皿になることを期待しています。

大平地域営農活性化組合の皆さん

（高橋喜和夫　現岩手県農林水産部畜産課）

先進的畜産経営の動向

（平成17年調査結果）

養 豚 経 営

（繁殖・肥育一貫経営）

種雌豚１頭当たり経常所得

４年前（平成13年）対比 94.0%

前　年（平成16年）対比108.4%

本資料は、道府県畜産会等と先進的畜産経営者の協力を得て中央畜産会が実施した「先進的畜産経営技術等実態調査」の調査結果を組替集計（表１）したものである。

１．調査・集計の内容

調査対象は、家族労働力を主体とした単一経営で（農業粗収入）に占める養豚部門収入が80%以上）で経営の技術･経済面等が先進的と見られる事例。

調査期間は、16年７月～17年６月までの１年間。

２．集計対象経営の特徴等

① 養豚経営を取りまく状況

枝肉卸売価格は下落傾向にあったが、13.14年は500円近くまで上昇していた。しかし、15年は420円前後に下落したが、16年は400円台後半に戻している。

一方、配合飼料価格は下降傾向にあったが、13年以降上昇傾向にある。

② 経営規模

「種雌豚飼養頭数」及び「肉豚出荷頭数」はいずれも前年（16）年とほぼ同じ。

なお、畜産統計と比較（表２）すると、集計対象経営は50頭以上飼養が85%を占めており、畜産統計より規模の大きい経営が対象となっている。

③ 収益性

「家族労働力１人当たり年間経常所得」は前（16）年に比べ81千円減の5,246千円（前年5,327千円）となった。「種雌豚１頭当たり年間経常所得」は11千円増の135千円（前年124千円）となった。

表１　経営動向　　（＊印は当期生産費用の数値）

項目		16年	17年
集計件数		60	
規模	労働力員数（（ ）は家族員数）（人）	2.7 (2.3)	2.6 (2.4)
	種雌豚飼養頭数（頭）	95.8	95.6
	肥育豚飼養頭数（頭）	764	777.5
	肉豚出荷頭数（頭）	1,783	1,811
収益性	家族労働力１人当たり年間経常所得（千円）	5,327	5,246
	種雌豚１頭当たり年間経常所得（円）	124,300	134,788
	肥育豚１頭当たり年間経常所得（円）	16,469	17,659
	所得率（%）	20.1	20.6
	種雌豚１頭当たり売上高（円）	618,675	653,360
	うち肉豚販売収入（円）	605,226	643,397
	種雌豚１頭当たり売上原価（円）	507,969	538,984
	同　当期生産費用（円）	524,915	559,566
	同　購入飼料費*(円)	313,163	329,550
	同　労働費*(円)	83,699	91,005
繁殖・育成技術要因	種雌豚１頭当たり年間分娩回数（回）	2.2	2.2
	１腹当たり分娩頭数（頭）	11.2	11.4
	種雌豚１頭当たり年間子豚離乳頭数（頭）	19.2	21.1
	種雌豚自家産割合（%）	47.8	49.0
	子豚育成率（哺乳開始～離乳）（%）	91	91.1
	種雌豚１頭当たり年間販売頭数（頭）	19.0	19.2
	種雌豚１頭当たり年間労働時間（時間）	68	69
肥育技術要因	枝肉１kg当たり販売価格（円）	415	444
	肉豚出荷時生体重（kg）	114	114
	枝肉規格「上」以上適合率（%）	53.4	49.7
	飼料要求率（%）	3.12	3.08
	販売肥育豚１頭１日当たり増体重（g）	648	657
	対常時頭数事故率（%）	10.5	10.7
	肥育豚１頭当たり年間労働時間（時間）	9.8	9.6
安全性	種雌豚１頭当たり資金借入残高（円）	152,161	150.291
	種雌豚１頭当たり年間借入金償還負担額（円）	12,525	12,570

表２　種雌豚飼養頭数規模別戸数の分布（一貫経営）

（単位：%、頭）

	～49頭	50～74頭	75～99頭	100頭～	平均頭数
集計対象	14.3	33.9	17.9	33.9	1,144
畜産統計	43.3		23.3	33.4	1,296

（資料）農林水産省統計情報部「畜産統計」（平成17年２月１日調査）

（注）　平均頭数は、全飼養豚の頭数

多様化する業界ニーズに応えトータルな畜産の未来を提案し続けます。
丸善薬品株式会社
本社　〒061-1274 北海道北広島市大曲工業団地6丁目2番地13
TEL 011(376)3860　FAX 011(376)2600
盛岡支店：TEL019(638)3291　一関営業所：TEL0191(23)2756
【支店・営業所】［北海道］札幌・旭川・北見・帯広・釧路・函館　［東北］青森・八戸・秋田・盛岡・一関・山形・仙台・郡山

家畜の保健衛生　(46)

血液生化学指標値を活用した正常卵率向上のための牛の飼料給与プログラム

受精卵移植技術の普及や、受精卵の生産コストの低減のためには、高品質な胚を安定的に生産することが課題となります。当研究所では、平成17年度から、飼料成分および血液検査値と正常卵率との関連について検討してきました。その結果、過剰排卵処理開始日の血中尿素態値（BUN）を血糖値（Glucose）で割った数値（＝B/G）が0.2未満、BUNが13mg/dl未満の牛で正常卵率70%以上となる比率が高いこと、非繊維性炭水化物と分解性摂取蛋白の比率が5以上の飼料を2週間程度給与するとB/Gが0.2未満に低下することがわかりました。そこで、試験的に、過剰排卵処理開始前の発情日にB/Gを測定し、B/Gが高い場合はとうもろこし等を増量し、非繊維性炭水化物と分解性摂取蛋白の比率が5以上となるよう飼料を調整すると、過剰排卵処理開始日のB/Gが0.2未満に低下し、正常卵率が向上することを実証しました（表1）。以上のように、事前の血液検査成績により、給与飼料を調整することで、正常卵率の向上が期待できます。

（畜産研究所　細川泰子）

採卵牛の検査、給与プログラム

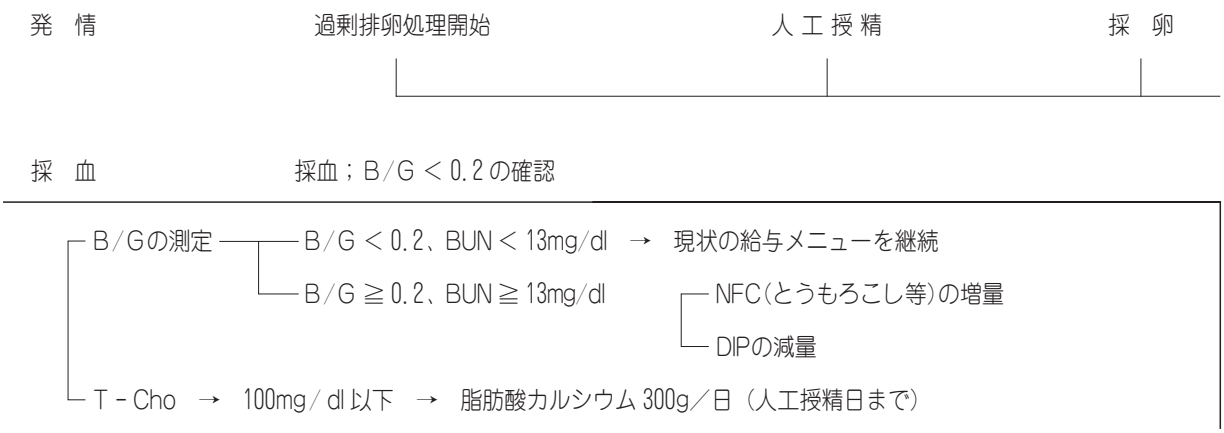


表1　過剰排卵処理開始日のBUN，B/Gおよび採卵成績の比較

	頭数	BUN（過剰排卵処理開始日）	B/G（過剰排卵処理開始日）	回収卵数（個）	正常卵数（個）	A～Bランク卵数（個）	正常卵率
試験区	8	7.6 ± 2.4	0.16 ± 0.05	16.8 ± 12.2	12.5 ± 10.3 a	10.5 ± 8.0 a	72.5 a
対照区	7	18.1 ± 4.6	0.40 ± 0.05	13.1 ± 9.5	4.7 ± 3.4 b	3.7 ± 3.0 b	38.9 b

試験区；充足率　DM 101.6%、TDN 122.3%　CP 103.4%　給与量　NFC 1534.7g　DIP 279.1g　NFC/DIP＝6.2
対照区；充足率　DM 106.5%、TDN 127.6%　CP 183.6%　給与量　NFC 1090.1g　DIP 602.4g　NFC/DIP＝1.8
異符号間に有意差ありab＜0.05

鳥チョ～うまい!!　新鮮　安心　ヘルシー　岩手県産チキン!!
岩手県ブロイラー事業協同組合
岩手県盛岡市盛岡駅前北通6-47
TEL 019-624-2870　FAX 019-625-0486

地域の話題をお届けします

現　地　情　報

一関地域

簡易電牧柵による黒毛和牛放牧 ～ 一関地方の取組み

1. 経　緯

一関地方では、肉用牛（黒毛和牛）の増頭対策の一環として平成16年から簡易電牧柵による放牧に取組んできました。直接的には、黒毛和牛の省力・低コスト生産、並びに遊休農地の有効活用を目的としています。

平成16年度は、岩手県の事業を活用しモデル圃場を設置。併せて設置講習会を開催し、普及を図りました。以降、地元JA、関係機関を中心とした継続的な技術指導を実施し、今年度までに41箇所2,367aの放牧場が設置されています。(下表参照)

【取組推移】

	H16	H17	H18
取組箇所（延べ）	6	16	41
取組面積（延べ：a）	299	1,052	2,367

2. 推進体制

地元JA、県機関が中心となり、初めての人でも安心して放牧ができるよう、以下のサポートを行っています。

①指導講習会等を通じた実施者の掘り起こし
②対象地の測量等放牧場の企画
③放牧場の設置指導、支援
④放牧場の運営指導、支援

3. 放牧による効果

３年間実施した結果、以下の効果が得られました。

①景観保全(50aに４頭放牧で２週間で下刈り完了)
②敷き料、エサの節減、堆肥管理労力節減(コスト、労力)
③野生動物の忌避効果
④産後回復の短縮化

低労力、低コスト生産の結果、増頭を行う生産者も出てきました。

また、放牧地の拡大を希望する農家も現れています。

4. 今後の課題

今後の課題として、以下の事柄が挙げられます。

①放牧場の維持管理能力の向上(適正な放牧頭数)
②『放牧技術』の普及…放牧が『あたりまえ』になるように

今後、普及推進していくうえでは、農家の皆さんにわかりやすい形で『放牧』のメリットについてお伝えし、一過性に終わらせない取り組みを行っていきます。

（一関農業改良普及センター　菊池恭則）

「女性の集い」開催

いわ肉用牛モーモー女性ネット

「いわて肉用牛振興協議会（本会事務局）」が主催する女性の集いが、肉用牛を飼養している女性の交流と意見交換を目的に盛岡市繋のホテルで開催されました。

集いには肉用牛生産に携わる女性を主体に約20名が出席、主催者の挨拶で本会佐藤総務部長（現事務局長）は「現在、県農業団体等が取り組んでいる「いわて肉用牛生産振興運動」の一つの柱である生産者のネットワーク作りとして今回の集いを開催した。皆さんが思っていることを自由に意見交換するのが目的であり、特別の議題やテーマは設けないので、肉用牛に関することだけでなく生活のことまで含めて日頃感じていることや、ほかの女性に伝えたい事など、フリートーキング感覚で意見交換して欲しい。」と述べました。

はじめに参加者が自己紹介を兼ねて、我が家の経営内容や日頃感じていることなどを紹介しその後意見交換を行いました。

●共進会用馬・乳牛肉牛用頭絡手綱・馬衣・乳牛用新型牛衣・肉牛用牛衣　●牛馬手入用毛ブラシ・根ブラシ・金ぐし
●普通乗鞍・ウエスタン鞍・ポニー用鞍等乗馬具・輓馬具一式・畜犬具
●電気工事用革ケース・カバン・ズック製袋カバン・リュックサックバンド・安全帯
●せんてい鉄ケース他造園工具ケース類　●その他特別御注文のカバン等承って居ります
創業102年品質第一手造りの店
岩手県指定店 塩釜馬具店
盛岡市大沢川原２丁目2の32　ＴＥＬ019-622-5393（労働福祉会館隣）

意見交換では「給餌時刻の変更で夜間の分娩が少なくなった。肥育牛の尿石の原因やビタミン欠乏への対処」などの技術的課題や後継者確保の問題、集落営農の課題など幅広く意見交換が行われ、また「女一人での分娩介助は危険でヘルパーが必要、子牛の哺乳、調教は目が行き届くので女性が最適。」など女性らしい意見も出されました。

参加者は自らが経営を担っている人、あるいは夫が中心で手助けをしている人等様々でしたが、共通する話題が多く、昼食をとりながらも継続して話し合いが行われ、参加者からは参加人数も適当で充実した話し合いができたと好評でした。

―― 平成18年 子牛生産費（岩手県）――

平成18年11月18日　発表
東北農政局　岩手農政事務所

○生産費

繁殖めす牛を飼養し、肉専用種の子牛を販売する経営における平成１８年の子牛１頭当たり全算入生産費は57万2,563円で、前年に比べ0.3％増加した。

繁殖めす牛１頭当たり全算入生産費は56万3,904円で、前年に比べ1.2％減少した。

子牛１頭当たり全算入生産費が増加したのは、物財費が減少したものの、飼料の調理・給与・給水、敷料の搬入・きゅう肥の搬出等の労働時間が増加したことにより労働費が増加したことなどによる。

○収益性

繁殖めす牛１頭当たり粗収益は、子牛販売価格が上昇したことから前年に比べ3.7％増加し、49万3,343円となった。

１．子牛生産費

（子牛一頭当たり）　（単位：円）

			平　17	平　18
物財費			324,378	316,601
	種付料		20,489	18,379
	飼料費		161,619	166,581
	うち	流通飼料費	99,851	101,910
		牧草・放牧・採草費	61,768	64,671
	敷料費		9,882	9,686
	光熱水料及び動力費		7,549	7,023
	その他の諸材料費		774	865
	獣医師料及び医薬品費		21,591	19,613
	賃借料及び料金		14,613	12,382
	物件税及び公課諸負担		18,272	15,494
	繁殖めす牛償却費		36,267	35,755
	建物費		14,844	13,677
		うち償却費	5,572	5,235
	農機具費		16,556	15,210
		うち償却費	6,392	4,477
	生産管理費		1,922	1,936
労働費			217,994	233,628
	うち家族		214,408	231,452
費用合計			542,372	550,229
副産物価額			62,322	66,175
生産費	副産物価額差引		480,050	484,054
	支払利子・地代算入		490,858	497,961
	全算入生産費		570,569	572,563

２．生産及び経営概況

区分		単位	平　17	平　18
経営概況（一戸当たり）	農業就業者	人	1.8	1.8
	繁殖めす牛飼養月平均頭数	月	7.6	7.6
	子牛販売頭数	頭	6.0	6.1
生産概況（子牛一頭当たり）	販売頭数	頭	6.0	6.1
	ほ育・育成期間	月	9.4	9.8
	販売時生体重	kg	273.4	290.6
	販売価格	円	413.525	435.255
労働時間（子牛一頭当たり）	労働時間計(うち家族)	時間	169.8 (167.2)	177.8 (176.1)
	飼料の調理・給与・給水	〃	67.3	69.3
	敷料の搬入・堆肥の搬出	〃	42.5	45.2
	手入れ・運動・放牧	〃	7.4	6.7
	その他管理	〃	9.5	10.5
	生産管理	〃	3.1	2.9
収益性（繁殖めす牛一頭当たり）	粗収益	円	475,847	493,343
	所得	〃	137,076	165,449
	１日当たり所得	〃	6,560	7,641
	家族労働報酬	〃	57,365	92,050
	１日当たり家族労働	〃	2,745	4,251

小ロットのオンデマンド印刷から
大量商業印刷まで
各種印刷・ドキュメント処理・アンケート調査支援

CTPシステム
小松総合印刷株式会社
岩手県盛岡市鉈屋町15-4　TEL(019)624-1374　FAX(019)623-6719
E-mail:mail@komatsu-gp.com　URL:http://www.komatsu-gp.com
A190373(01)

畜産技術情報 (8)

牧　　草

増収を期待した遅刈りは、栄養価や刈り取り後の生育に悪影響を及ぼします。
適期刈り取りに努めましょう。

1. 牧草の刈り取り適期

１番草は年間を通じて、質・量ともに最良な成績を期待できるため、この時期の収穫作業は大切です。

そこで注意したいのが刈り取り時期です。

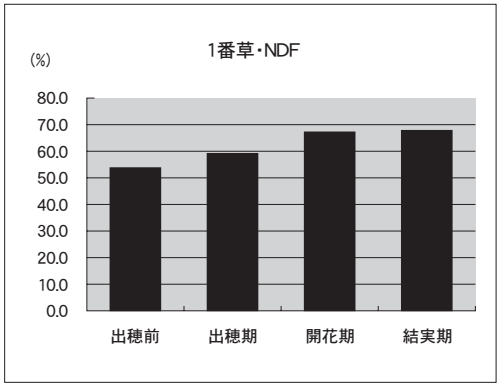
右図は、オーチャードグラスにおける１番草の栄養価の推移を示したものです。

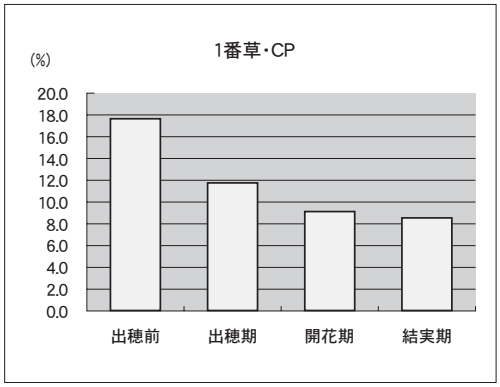
１番草では生育が進むと草丈が高くなり、これに伴って収量が増加しますが、繊維含量（NDF）も増加します。

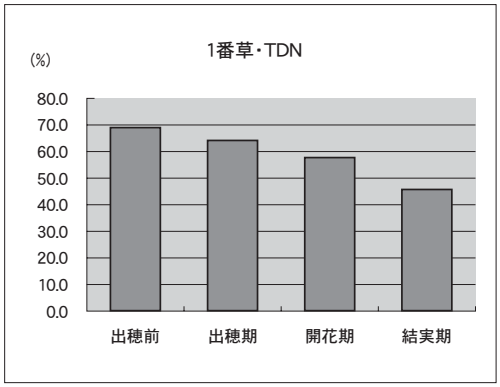
反対に、出穂始めから葉部割合、蛋白質含量は急速に減少し、栄養価が低下します。また、消化率も低下し、牛の嗜好性も悪くなります。

したがって、１番草の刈り取りは収量を確保しつつ栄養価が高い時期、すなわち『出穂始めから出穂期』に行うことが適切です。

なお、早すぎる収穫では収量が十分確保できないうえに、刈り取り後の再生に悪影響を及ぼすため、注意が必要です。







2. 牧草の刈り取り高さ

牧草の刈り取り高さは、再生力の強弱を決定する重要な要因です。

牧草は低刈りされると、生長点を切除されたり同化作用を営む緑葉が刈り取られるとともに、貯蔵器官の一部が取り去られ貯蔵養分総量が少なくなるため、再生が悪くなります。

一方、高刈りの場合は、牧草の再生の面からは好都合となりますが、採草の観点からは収量が減少し、刈り残しによる損失が増大します。

したがって、牧草の刈り取り高さは、牧草の再生力と収量の両面を考慮して、10㎝程度が適当となります。

3. 刈り取り後の追肥

２番草の生育を促すため、刈り取り後直ちに追肥を行いましょう。

施肥量は、10ａ当たり成分量で窒素５kg、リン酸2.5kg、カリ５kg とします。

（中央農業改良普及センター滝沢駐在　019−688−5525）

くずまき高原牧場特産品
ご宿泊・ご宴会にご利用下さい。
くずまき交流館フラトー
TEL. 0195-66-0555　FAX. 0195-66-0511
乳製品の自宅宅配承っております。
ミルクハウスくずまき
TEL. 0195-66-0030　FAX. 0195-66-0031
風車が回る高原の焼肉レストラン
レストハウス袖山高原
TEL/FAX. 0195-68-2010
くずまき高原牧場
社団法人 葛巻町畜産開発公社
http://www.kuzumaki.jp
〒028-5402　岩手県岩手郡葛巻町葛巻40-57-125
TEL. 0195−66−0211　FAX. 0195−66−0755

日本短角種施策提案・要請検討会開催さる

日本短角種振興協議会（会長伊達勝身岩泉町長、事務局本会）が２月20日、標記検討会を盛岡市の盛岡農林会館で開催しました。

検討会には青森、秋田、岩手の各県から、本協議会の理事、幹事および各県の県、市町村、農業団体の担当者が出席し、各県の短角牛をめぐる情勢等について熱心に検討しました。

伊達会長は挨拶で「短角の役割は最近残念ながら小さくなってきたが、南部牛の時代から文化経済の中心であり、濃厚飼料高騰の折短角のよさが必ず見直される。国に対する要請活動もしながら、維持し振興を図ってまいりたい」と挨拶しました。

日本短角種は年々減少しているが、３県での飼養状況は繁殖、肥育合わせて飼養戸数581戸、飼養頭数4,556頭、そのうち約80％の3,647頭が岩手県で飼養されています。

各県からは飼養農家の高齢化、後継者不足、また大手企業等の参入で資源の減少が懸念される等の問題提起がなされました。

一方需要も根強く、飼養頭数の減少、さらには県外への肥育基牛の流出等もあって、ユーザーからの要望に応じきれない状況にある。

今後、地域内一貫生産をさらに推進する共に粗飼料多給肥育などの高付加価値化を図ること、また三県で連携した種雄牛の造成やより一層有利かつ安定的な販路を拡大することが必要などの意見が出されました。

挨拶をする伊達会長

“しゃぶしゃぶ”のルーツ

ティータイム

“しゃぶしゃぶ”といえば、もうすっかりお馴染みになって、中国料理だか日本料理だか見分けがつかなくなったが、もともとは中国の東北部に伝わる「涮羊肉（サオヤンロー）」がルーツだと。

“しゃぶしゃぶ”の考案者ははっきりしないが、中国料理の「涮羊肉（サオヤンロー）」にヒントを得て京都の老舗のお茶漬け・水炊きの料理屋の主人が考えたものだとか。中国の「サオヤンロー」が洋肉料理であるのに対してわが“しゃぶしゃぶ”は牛、豚、羊と肉の種類を選ばないところが誠に日本的である。“しゃぶしゃぶ”という名前は肉の「スエヒロ」が昭和27年自店の料理として出すさいに命名したもので、「肉のしゃぶしゃぶ」として商標登録しており、れっきとした氏素性の正しい名前なのである。

昨年妻と一緒に中国を訪れた際、是非“しゃぶしゃぶ”のルーツにお目にかかりたいものと添乗員にお願いして「サオヤンロー」の専門店に案内してもらったが、現地人に混じって多数の外国人で賑わっていた。各自鍋焼きうどんのような小さな鍋で頂いたが、“しゃぶしゃぶ”は牛か豚という固定概念しか無かった我々日本人にとっても、羊肉の“しゃぶしゃぶ”もなかなかいけると感心しながら賞味したしだいである。

また、さすが中国というか、薬味が40～50種類もならべられて、各自自分の気に入った薬味をたれにして食するが、いかんせん書かれてある中国語はとんと分からず、日本的にゴマとにんにく、その他しょう油らしきもので賞味したしだいである。またなぜか生卵が一個添えてあり、何に使うのかと周りを見渡したが、ほとんどが海外からの旅行者らしく、小生以上に始めての事と見えて手をつけるようすもない。卵も付けたれの一種かと、スキヤキ風に用いたが、隣の席のヨーロッパ人らしきご婦人が、殻付きのまま、ゆで卵よろしく鍋で羊肉と一緒に煮込んでいた。なんとも珍妙というか大胆というか、文化の違いを感じながら、なにはともあれ本場中国の「サオヤンロー」の初体験は無事終了したしだいである。　（S）

昭和44年１月９日第三種郵便物認可

畜産の研究　(46)

黒毛和種人工哺育子牛における群飼移行時のストレス反応

近年、黒毛和種子牛が人工哺育される事例が増えてきました。カーフハッチなどの単飼から集団育成施設などで群飼移行させる場合、多発しがちな下痢などの病気を抑えるために、ゆとりを持った牛床スペースは大切であることが血液のストレス指標の変化から裏付けられました。

外山畜産研究室では、牛床面積が子牛の生体機能に与える影響を調査し、次のような結果を得ました。単飼した黒毛和種人工哺育子牛（平均81日齢）を、牛床面積を１頭当たり３㎡と２㎡の２群（各６頭）に分けて群移行させました。１頭あたり２㎡に移行させた群はストレス反応を示すコルチゾールおよび病気の感染による急性炎症反応を示すα1AG濃度が高く推移することがわかりました。このことから、３ヶ月齢程度の子牛を群飼に移行する際は、ストレスと病気の低減のための牛床面積を少なくとも１頭あたり３㎡が必要であると考えられます。

群飼移行時の牛床面積が子牛のストレスおよび生体反応に及ぼす影響

		群移行後日数		
		1	2	7
コルチゾール濃度	3㎡区	3.80	3.56	6.38
(ng / ml)	2㎡区	8.73	4.62	8.99
α1AG濃度	3㎡区	132.8	123.5	145.5
(mg / ml)	2㎡区	192.2	187.3	187.5

（畜産研究所外山畜産研究室　藤澤牧人）

図書のご案内

新しいタイプの畜産を目指して

『資源循環型畜産の展開条件』

農林統計協会発行　A５判　234頁　税込価格　2,940円(送料350円)

「集約加工型」といわれる日本畜産が形成された背景と要因を解明し、問題の所在を明らかにしたうえで今後あるべき姿である資源循環型畜産の概念、課題や展望などを健闘し実践例も紹介。

■記事の訂正

先月号（４月１日号）の記事に一部誤りがあったので訂正します。

○８頁　受賞者及び演題名の表の演題名覧中

㊟ 血液生化学 …… 飼料給与プログラム

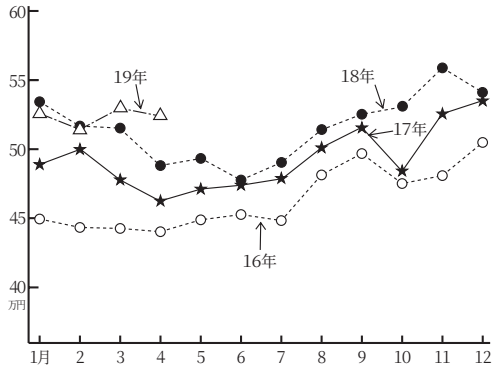
㊞ 血液生化学 …… 資料給与プログラム

平成19年４月和牛子牛市場成績〈税込〉

（全農岩手県本部）

市場(月日)	上場地域	性別	頭数	最高(円)	最低(円)	平均(円)	平均体重	kg当単価
県南4／11(水)	胆江気仙	♀	214	687,750	262,500	466,725	277	1,687
		♂	250	753,900	228,900	552,506	306	1,804
		計	464	753,900	228,900	512,943	293	1,753
県南4／12(木)	磐井	♀	161	885,150	236,250	485,935	276	1,764
		♂	1	433,650	433,650	433,650	310	1,399
		♂	218	737,100	259,350	550,470	313	1,757
		計	380	885,150	236,250	522,820	297	1,759
中央4／18(火)	新岩手	♀	194	702,450	274,050	492,320	276	1,784
		♂	296	742,350	303,450	576,223	306	1,885
		計	490	742,350	274,050	543,004	294	1,848
中央4／19(水)	遠野一戸二戸久慈	♀	248	765,450	160,650	473,368	279	1,694
		♂	325	767,550	124,950	573,626	311	1,843
		計	573	767,550	124,950	530,234	297	1,783
中央4／20(木)	盛岡紫波宮古花巻北上	♀	168	619,500	309,750	449,325	279	1,608
		♂	240	764,400	379,050	548,621	315	1,744
		計	408	764,400	309,750	507,734	300	1,692
合計		♀	985	885,150	160,650	473,611	277	1,707
		♂	1	433,650			310	1,399
		♂	1,329	767,550	124,950	561,917	310	1,813
		計	2,315	885,150	124,950	524,289	296	1,770

子牛価格の推移（過去３年）



平成19年３月岩手県内指定家畜市場取引成績

㈳岩手県農畜産物価格安定基金協会

区分	指定肉用子牛		
	頭数	金額	平均価格
黒毛和種	頭 1,658	円 844,230,450	円 509,186
褐毛和種	15	4,344,900	289,660
日本短角種	17	4,989,600	293,506
ホルスタイン種(雌を除く)	4	445,200	111,300
交雑種・乳	12	2,547,300	212,275

(注)：金額、価格は消費税込み